新年のご挨拶

圭陵会会長　赤　坂　俊　英

新年明けましておめでとうございます。

ここ3年間はコロナ禍で、会員の皆様と面と向かった大きな会議を持つことが出来ず、ネットによるWeb会議ばかりで寂しく、申し訳なく思っております。世界では戦争中の国もあり、コロナという疫病も蔓延しましたが、是非、新年は戦争もコロナ感染も終結し、素晴らしい年になることを祈っております。コロナもインフルエンザと同様に軽症化型で寒冷期発症蔓延型に変化しつつあり、おそらく今春はきっと皆様のお顔を拝しながら圭陵会総会を持てるものと期待しております。母校岩手医科大学病院には矢巾新病院にコロナ感染病床が設置され、常時コロナ重症患者の治療にあたっています。さらに全国各地で圭陵会員が懸命にコロナ患者の治療、検査、看護、感染予防に奮闘・努力し貢献しておりますことは、圭陵会員として誇りに思います。

今年の春で我が母校の岩手医科大学は創設から126周年を迎えます。我が母校は明治30年（1897年）4月20日に三田俊次郎先生により私立岩手病院として創設され、以後、昭和40年（1965年）4月には歯学部開設、平成19年（2007年）4月には矢巾新キャンパスの完成にともない、念願の薬学部を開設、さらに平成29年（2017年）には看護学部が開設され、愈々医療系総合大学として大きく躍進しています。

一方、我が母校岩手医科大学の同窓会である圭陵会は昭和7年（1932年）3月25日に発会し、今春で91周年を迎えます。前述した様に初めは医学部から始まりましたがやがて歯学部が加わり、現在は薬学部と看護学部の準会員である学生と卒業生とを合わせ圭陵会員は12000人を超え、大きな組織として発展してきました。この間、学舎は盛岡内丸地区を中心に、一時期、教養部は昭和中期に静岡の三島市、その後は旧三戸町分院隣りに、そして現在は教養部も、学部も病院も矢巾地区で学んでいますが、学舎は卒業後も大きな思い出として皆様の心に残っているでしょう。

小川理事長先生も祖父江学長先生ももちろん圭陵会会員であり、母校岩手医科大学を牽引しており、学祖の三田俊次郎先生が唱えた「誠の人間と誠の医療」を引き継ぎ、母校の学生教育と日本の医療を強力に推し進めております。わが圭陵会は母校岩手医科大学を大きく後援するとともに、全国で活躍する支部会員の熱き母校に対する想いを母校および全国の圭陵会員に伝えるとともに、母校の状況を会員の皆様にお伝えし、さらに、母校の援助を継続することを誓い、新年のご挨拶に致します。

新年のご挨拶

学校法人岩手医科大学　理事長　小　川　　彰

明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族ともどもご健勝で新年を迎えられた事と心よりお慶び申しあげます。

さて、コロナ禍の影響で、圭陵会の皆様と親しくお話する機会もなく大変残念なここ数年です。学生諸君も、クラブ活動が制限され、在学生先輩や、クラブ諸先輩のご指導を受けることが出来ず、大変残念です。クラブ活動を通じた先輩からのご指導は、社会人として、また将来の医療人として人間的に成熟する大学生時代において、社会性や人間性を獲得する極めて重要な時期の人間関係です。これは、大学にとっても学生指導の上で大変なマイナスです。1日も早くコロナ禍が収束する事を心から願っています。

本学も、医、歯、薬、看護の4学部を有する医系の大大学に成長しました。今や、学生数は約2000名、教職員数約3000名を数えます。また、矢巾本院は1000床で北東北・北海道で最大の病院です。

内丸キャンパスは、約8000坪、本町の旧教養部は約8000坪、対して、矢巾キャンパスは11万坪で、従来の約8倍の広さに拡大しました。旧内丸本院の入院部分は閉鎖し、外来、診断部門のみ稼働しています。外来部分は100%稼働しており、連日外来患者でにぎわっています。また、現時点で歯学部・歯科医療センターは従来と変わりません。

今後の予定ですが、旧循環器医療センターの病棟を病棟1病棟50床は残し、手術室は小手術や日帰り手術用として継続使用し、それ以外の部分は管理棟・歯学部・歯科医療センターに変更の予定です。歯学部移転の後は、歯学部A・B・C・D棟及び裏の駐車場部分に「新内丸メディカルセンター」を整備する予定です。

歯学部角の1号館は現東京駅丸の内駅舎の設計に携わった葛西萬司氏の設計であり「大正ロマン」のにおいのぷんぷんする本学初の木造でないコンクリート不燃建築物で、大正時代の建築です。この建物は記念館として残し、圭陵会本部事務室機能を有する施設として整備しようと思っています。

盛岡中心部と矢巾キャンパス（本院）間の道路事情は劣悪です。しかし一昨年から国土交通省に「高度救命センター」への道路のアクセスをお願いし、盛岡南道路として整備されることとなっています。西バイパスから西南開発道路を経て、国道4号南道路へ続き、矢巾キャンパスの北側を経て4号線につながる高規格道路です。昨年「調査費」がつき、今年度は「土地収用費」が予算計上されます。さらに岩手県は矢巾キャンパスを中心とした地域を「高度医療ゾーン」と位置付けており、重要な医療関係機関が続々集まってくる予定です。岩手医科大学・矢巾・本院地区はこの10年更に大きく変わって行くでしょう。

❶キャンパスモール
❷東研究棟
❸東講義実習棟
❹図書館・食堂
❺体育館
❻ドミトリー圭友館（学生寮）
❼本部棟
❽西研究棟
❾西講義実習棟
❿動物研究センター
⓫超高磁場先端MRI研究所
⓬球誠館（学友会館）
⓭ドクターヘリ基地、ヘリポート
⓮災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟
⓯エネルギーセンター
⓰新附属病院
⓱トクタウェール（店舗棟）
⓲やはばなかよし保育園

岩手医大125年の歴史をつづる「世界一の地域医療をめざして―岩手医大物語」著小川彰（潮出版社）が発刊されています。内容：第1章チーム医療の先駆け。第2章なぜ私は脳外科医を目指したか。第3章草創・黎明期岩手医科大学。第4章岩手医科大学と台湾を結ぶ三人。第5章「先駆け」の歴史をつないで。第6章3.11の教訓を更なる原点に。第7章患者にやさしい医療を目指して。第8章コロナ禍を超えて　圭陵会事務局（tel：019-624-8386）にお申し込み下さい。

謹賀新年

岩手医科大学　学長　祖父江　憲　治

新年、明けましておめでとうございます。圭陵会の先生方におかれましては、御家族共々健やかな新年を迎えられましたことを、お慶び申し上げます。また、日頃より先生方の温かい御理解と御指導を賜っておりますことに、心から感謝申し上げます。

ここ数年来、世界を震撼とさせております新型コロナウイルスが猛威を振るっておりますが、我が国では第７波が終息に向い胸を撫で下ろしていた矢先、第８波襲来が予感されます。人類にとって、新型コロナウイルスのみならず今後襲来するであろう新興感染症に対し、緊張感を持ち先手の対応が重要であります。圭陵会の先生方におかれましては、くれぐれも御自愛下さいませ。

本学では附属病院敷地内に新型コロナを含む新興感染症に対応するため、県の支援により「感染症対策センター」（感染防御のため附属病院とは別棟として）を昨年４月に開院し、重症患者を中心に、県内各医療施設と連携して、当面はコロナ対応を行っております。

コロナ禍で、本学の学生教育におきましては対面講義を基本とし、必要に応じWebによるオンライン講義も併用してまいりました。実習におきましても、全学部とも本学と学外実習について通常通り遂行し、コロナ流行で中止せざるを得ない場合のみ代替実習を行うなど、学生諸君の学習に極力支障を来たさないよう対処してまいりました。感染症対策のためここしばらくの間は、学生諸君に幾ばくかの不自由をかけることになり、忸怩たる思いです。

令和４年度圭陵会代議員会・総会資料ならびに圭陵会会報（10月号）で詳細な報告を致しましたが、昨春の医・歯・薬・看四学部の国家試験は、医師国家試験では一昨年と同様に好成績を維持し、歯科医師国家試験と薬剤師国家試験はもう一歩という結果で、看護師・助産師・保健師国家試験は100％の合格率でした。これも一重に、圭陵会の先生方の御理解、御指導さらに御支援によるものと感謝致しております。間もなく、今春の国家試験シーズンに入ります。この時期になりますと、学生諸君は勿論の事、我々教職員にとりましても、学生時代には体験したことがなかったような緊張感が迫ってまいります。より多くの学生諸君が各国家試験の関門を通過し、医療人として最前線で活躍してくれる事を祈念しております。

附属病院が移転して３年余、附属病院と内丸メディカルセンターが相互補完して役割分担を果たす体制が、徐々に形を成して、県民や近在の皆様にも認知されつつあります。しかしながら、現状ではまだまだ充分とは言えず、新たな仕掛けを模索しつつ、両病院が岩手・北東北・東北の医療中核拠点として役割を果たすべく努力する所存です。殊に、内丸メディカルセンターの新改築は喫緊の課題であり、全力を傾け努力してまいります。本年は歯学部・歯科医療センターを入院棟（旧循環器医療センター）へ移設する計画が開始され具体化します。

今後の本学の発展と北東北・東北の医療にとって重要な課題が人造りです。これ迄に何度も申し上げてきたことですが、本学の将来を担う人造り（人材養成）です。各講座・研究部門で優秀なスタッフが集まっており、教育・診療・研究において活躍を期待しています。これらスタッフは、学部教育から卒後教育までをも担当しています。殊に、医学部と歯学部では医師・歯科医師の卒後教育において、いかに多くの若い医師・歯科医師が集うかが大学の力を左右する現実的な問題となっています。臨床研修医・歯科研修医と専門研修医（専攻医）に対して、魅力ある職場環境の提供と各医局・講座さらに大学の情報発信が重要と考えております。本学のみならず他大学からもより多くの医師・歯科医師が集まってくれるような、輝く大学造りに努めてまいります。

圭陵会の先生方におかれましては、今後とも本学の発展に向けて御指導賜りますと同時に、時節柄御自愛賜りますことをお祈りして年頭の挨拶と致します。